

## 訓練条件の選定

まずは、以下の項目を整理しましょう。

項目		選択肢	備考
訓練形式		シナリオ型	<ul style="list-style-type: none"> <li>シナリオを公開して行う形式</li> <li>難易度:低、基礎力向上に適</li> </ul>
		ブラインド型	<ul style="list-style-type: none"> <li>シナリオを公開せずに行う形式</li> <li>難易度:高、応用力向上に適</li> </ul>
想定する災害種類		土砂災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震・津波は、呼びかけ体制の対象外</li> <li>土砂災害警戒区域に該当する地区は、土砂災害への対応から始めることを推奨</li> </ul>
		洪水(高潮)災害	
訓練区分		情報伝達訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練構成:単純</li> <li>初めて計画する場合:情報伝達訓練を推奨</li> </ul>
		避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練構成:複雑</li> </ul>
訓練対象者	全般	自治会加入者のみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の自治会名簿が利用できる。</li> <li>自治会未加入者への対応ができない。</li> </ul>
		担当地区の居住者総員	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会未加入者の名簿は、独自に作成する必要がある。</li> <li>自主防災のあるべき姿に合致</li> </ul>
	避難行動要支援者	市が配布した名簿の範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の名簿が利用できる。</li> <li>名簿未記入者への対応ができない。</li> </ul>
		担当地区に居住する全ての要支援者	<ul style="list-style-type: none"> <li>名簿未記入者の名簿は、独自に作成する必要がある。</li> <li>自主防災のあるべき姿に合致</li> </ul>

# 連絡網の作成

条件別に連絡網の構成を検討し作成しましょう。  
防災上の特性や構成員の特質から、最適な型は組織毎に異なります。

## 1 目的別

「総員連絡用」

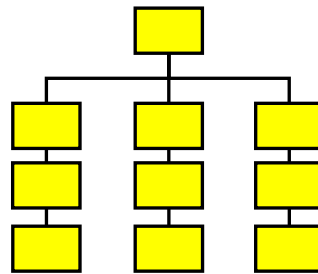


「特定地区連絡用」

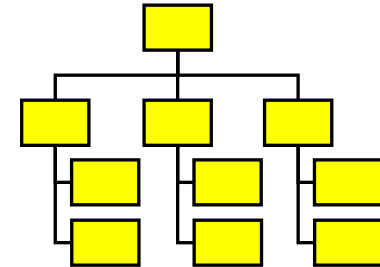


## 2 形態別

「数珠型(PTA方式)」

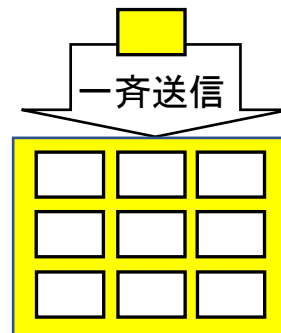


「個別型」

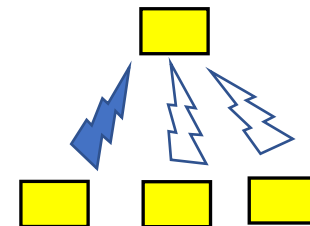


## 3 連絡手段別

「メール又はLINE(SNS)」



「音声電話」



## 訓練計画の組み立て

「訓練条件の選定」が終わったら、訓練計画を組み立てましょう。  
訓練計画に盛り込む代表的な項目は以下の通りです。

いつ	訓練の時間割(情報伝達訓練と振り返りの時間配分)
どこで	参加者の居場所、集合場所
誰が	参加者の範囲の明確化
何を	訓練項目の明示
なぜ	訓練の狙いの明確化
どの ように	進め方、制限・規約事項、 実施・中止の判断基準・連絡方法など